

企業、NGO連携による海外の森林保全・造成活動
促進のための国際ワークショップ



NGOと企業のネットワーク

2012年3月15日
国際協力NGOセンター (JANIC)
事務局次長 富野 岳士



地球×未来。あなたと今できること。
NGOを支援するNGO
国際協力NGOセンター(JANIC)
Japan NGO Center for International Cooperation

目次

- ◆JANIC紹介
- ◆企業とNGOのネットワーク
～CSR推進NGOネットワーク紹介～
- ◆企業とNGOの連携

JANIC紹介

～JANICとは NGOを支援するNGO～

国際協力NGOセンター（JANIC）は日本有数のネットワーク型NGOです。NGO、企業、市民のみなさん、政府・自治体、これらすべてをつなぐ役割を担っています。JANICはNGOを「ネットワーク」することで、

- もっとNGOの活動を活発にします
- もっとNGOの声を大きくしていきます
- もっとNGOのことをわかりやすく伝えます
- もっとNGOと市民が出会う場をつくります



日本最大級の会員ネットワーク

JANIC正会員（98団）

- | | | | |
|---------------------------|-----------------------------|----------------------------|--------------------------------|
| (特活)ICA文化事業協会 | (特活)カラ＝西アフリカ農村自立協力会 | (公社)セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン | (特活) ハート・オブ・ゴールド |
| (特活)ACTION | (特活)環境修復保全機構 | (財)世界宗教者平和会議日本委員会 | (特活)ハーベストタイム |
| (特活)アクセス＝共生社会をめざす地球市民の会 | (特活)グッドネーバース・ジャパン | (特活)地球市民の会 | (特活)パレスチナ子どものキャンペーン |
| (財)アジア・アフリカ国際奉仕財団 | (公財)ケア・インターナショナル ジャパン | (公財)ケア・インターナショナル ジャパン | (特活)ハンガー・フリー・ワールド |
| (学)アジア学院 | (特活)ケアリングフォーザフューチャーファンデーション | (特活)地球の木 | (特活)ピースウインズ・ジャパン |
| (特活)アジア・コミュニティ・センター21 | ジョン | (特活)地球の友と歩む会/LIFE | (特活)ヒューマンライツ・ナウ |
| (特活)アジア日本相互交流センター | (公財)国際開発救援財団 | (特活)地球緑化センター | (特活)ヒマラヤ保全協会 |
| (特活)ADRA Japan | (特活)国際子ども権利センター | (特活)チャイルド・ファンド・ジャパン | BAC仏教救援センター |
| (特活)ESAアジア教育支援の会 | (特活)国際協力NGO・IV-JAPAN | (特活)燈台(アフガン難民救援協会) | (特活)フレンズ・ウィズアウト・ア・ボーダー-JAPAN |
| (社)アジア協会アジア友の会 | (特活)国際ボランティアセンター山形 (IVY) | (特活)東方科学技術協力会 | (特活)フェアトレード・ラベル・ジャパン |
| (特活)アジアキリスト教教育基金 | 国際民間援助協議会「メコン基金」 | (特活)難民支援協会 | (特活)ワールド・ビジョン・ジャパン |
| (特活)アーシャ＝アジアの農民と歩む会 | (特活)国境なき医師団日本 | (特活)難民を助ける会 | (特活)フリー・ザ・チルドレン・ジャパン |
| (特活)APEX | (特活)国境なき子どもたち | (特活)2050 | 緑のサヘル |
| (特活)アフリカ日本協議会 | (特活)金光教平和活動センター | (特活)日本・雲南協議会 | (特活)緑の地球ネットワーク |
| (特活)アフリカ地域開発市民の会 (Can Do) | (特活)C.P.I.教育文化交流推進委員会 | 日本カトリック信徒宣教会 | (特活)ミレニアム・プロミス・ジャパン |
| (特活)アムダ | (特活)ジーエルエム・インスティテュート | (公社)日本キリスト教海外医療協力会 | (財)民衆センター |
| (特活)アーユス仏教国際協力ネットワーク | (特活)ジャパンハート | (特活)日本国際ボランティアセンター | (特活)メドゥサン・デュ・モンド ジャパン (世界の医療団) |
| (特活)WE21ジャパン | (特活)シエラ＝国際保健協力市民の会 | (特活)日本ヒアリングインターナショナル | (特活)メドゥサン・デュ・モンド ジャパン |
| (特活)ACE | 障害分野NGO連絡会(JANNET) | (特活)日本フィリピンボランティア協会 | (特活)ラオスのこども |
| (特活)エフアジヤン | (特活)聖地のこどもを支える会 | (公財)بران・ジャパン | (特活)れんげ国際ボランティア会 |
| エイズ孤児支援NGO・PLAS | (特活)JHP・学校をつくる会 | (特活)日本紛争予防センター | (特活)ワールド・ファミリー・ファン |
| (公財)オイスカ | (特活)JEN | (特活)熱帯森林保護団体 | ワールドランナーズ・ジャパン |
| (特活)幼い難民を考える会 | (特活)JMS | (特活)ノマドインターナショナル | |
| (特活)オックスファム・ジャパン | (特活)歯科医学教育国際支援機構 (OISDE) | (特活)ハビタット・フォー・ヒューマニティ・ジャパン | |
| (特活)開発教育協会 | (特活)シャブラニール＝市民による海外協力の会 | | |
| (特活)かものほしプロジェクト | (公社)シャンティ国際ボランティア会 | | |
| | (財)ジョイセブ(家族計画国際協力財団) | | |

- 正会員の条件
1. 開発、人権、環境などの分野において国際協力および地球市民学習・開発教育などに入会後、継続して関わる団体であること。
 2. 市民により設立された 非営利団体で、本部組織等の活動拠点が日本にあること。
 3. 原則として、3分の1以上の財源が自己資金であること。
 4. 民主的な意思決定機関を置き、会則等に従って運営されていること。
 5. 団体の役員および決算書が公表されていること。
 6. 2年以上の活動実績があること。
 7. 連絡可能な事務局体制がとられていること。

日本最大級の会員ネットワーク

団体協力会員（59団体）

(特活)アース・アイデンティティ・プロジェクト
 (特活)アジア職業ネットワーク
 あしなが育英会
 ACA-AQUA
 (財)WESLEY FOUNDATION
 (特活)オーシャンファミリー海洋自然体験センター
 (財)M R Aハウス
 (財)大竹財団
 神奈川県海外ボランティア歯科医療団
 (特活)環境アリーナ研究機構
 技能ボランティア海外派遣協会
 (財)キープ協会
 (財)国際開発センター
 (特活)国際協力研究所・岡山
 (財)国際協力推進協会
 (財)国際緑化推進センター
 (特活)国連支援助交協会
 (社)コンサベーションインターナショナル・ジャパン
 (財)笹川平和財団
 CSOネットワーク
 宗教法人 真如苑
 JGC 通訳ボランティア事務局
 (特活) J I P P O
 (財)自治体国際化協会
 (公社)シビックフォース（緊急即応チーム）
 (特活)じゃっど
 (特活)ジャパン・プラットフォーム
 (特活)シャンティ山口
 (社)青年海外協力協会
 (特活)世界の子どもにワガを日本委員会

(財)損保ジャパン環境財団
 (財)ダイバーシティ研究所
 タンザニア・ボレボレクラブ
 (特活)チャリティ・プラットフォーム
 天理教国際たすけあいネット
 (公財)トヨタ財団
 日本イラク医療支援ネットワーク
 (特活)日本カンボジア交流協会
 (財)日本国際協力システム
 (財)日本国際協力センター
 (特活)日本地雷処理・復興支援センター
 日本生活協同組合連合会国際部
 日本ファイバーリサイクル連帯協議会
 日本福音ルーテル社団
 (財)日本ユニセフ協会
 (社)日本ユネスコ協会連盟
 日本労働組合総連合会
 ハイチ友の会
 (特活)HANDS
 (特活)BHNテレコム支援協議会
 ビースポートUPA国際協力プロジェクト
 (特活)ピラーンの医療と自立を支える会
 (特活)ひろしまNPOセンター
 (財)福岡県国際交流センター
 プロアルテ エクアドル ジャパン
 (特活)ホープワールドワイド・ジャパン
 マンフィーと青年基金
 U I ゼンセン同盟
 (財)ゆうちょ財団 国際ボランティア貯金センター

(敬称略・50音順)

企業協力会員（40社）

アクセンチュア（株）
 旭硝子（株）
 味の素（株）
 SGSジャパン（株）
 沖電気工業（株）
 オリンパス（株）
 花王（株）
 キョコマンビジネスサービス（株）
 京セラコミュニケーションシステム（株）
 (株) サステナブル・プランニング
 (株) ジェイアイズ
 (株) 資生堂
 住友化学（株）
 ソニー（株）
 (株) 大和証券グループ本社
 武田薬品工業（株）
 (有) テトルクリエティブ
 デベックス日本支社
 (株) 電通
 (株) トクヤマ
 (株) 日本開発サービス
 日本郵船（株）
 野村ホールディングス（株）
 (株) ノル コーポレーション
 パークレイズ・キャピタル証券（株）
 パークレイズ銀行 東京支店
 パークレイズ・キャピタル・ファンド
 ソリューションズ・ジャパン（株）
 (株) 博報堂
 (株) ビデオエイベックス
 ファイザー（株）
 富士通（株）
 (株) プリチストン
 (株) ヘルモ
 (有) 松田興業
 ミズノ（株）
 三井住友海上火災保険（株）
 三菱商事（株）
 三菱地所（株）
 (株) リコー
 Red-Zone（株）

略・50音順

(敬称)

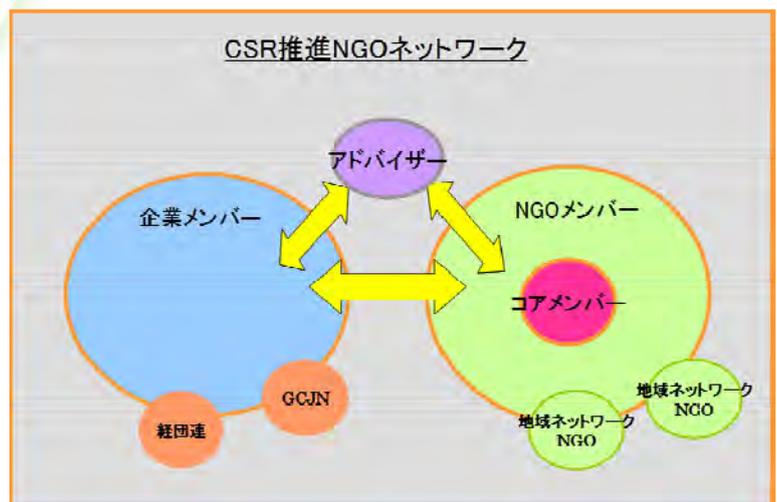
企業とNGOのネットワーク

概要 ～CSR推進NGOネットワーク紹介～

- 世界の「**貧困と開発**」の問題解決に寄与するため、NGOと企業の連携を促進するためのプラットフォーム。2008年4月に結成、JANICが事務局を担当。
- 2012年4月1日より、「**NGOと企業の連携推進ネットワーク**」に名称変更。
- **キャッチフレーズ**：違いを力に。貧困のない世界を創ろう。

【2011年度主な活動形態】

1. コア会合（毎月）
2. 定例会（隔月）
3. NGOの企業連携実態調査
4. シンポジウム開催（広島、東京）



CSR推進NGOネットワークとは

【2011年度の活動方針】

- ◆ NGOと企業が対話を行い、**両者が合同で取り組める課題の抽出や協働アクション**を行う。
- ◆ 本ネットワークの認知度向上、これまでの成果物を「使い・広める」こと、「地域の視点を取り入れる」ことも意識。

【3カ年目標】

NGOと企業の連携の**量**を増やし、NGOと企業の連携の**質**を高める

【主な活動テーマ】

- ① 連携事例の共有と創造
- ② 連携促進のためのコンサルテーション
- ③ 地方のNGOや中小企業の巻き込み
- ④ 効果的な提言活動（対企業、企業ネットワーク、消費者等）
- ⑤ 本ネットワークのブランディング活動
- ⑥ 国際協力NGOの企業連携実態調査

2011年度CSR推進NGOネットワークのメンバー

<NGOメンバー：31団体>

- (特活) アジア日本相互交流センター (ICAN)
- (特活) アジア砒素ネットワーク
- (特活) ADRA Japan
- (特活) アフリカ日本協議会
- エイズ孤児支援NGO・PLAS
- (特活) ACE
- (特活) NGO福岡ネットワーク
- (公財) オイスカ
- (特活) オックスファム・ジャパン
- (財) 家族計画国際協力財団 (ジョイセフ)
- (特活) グッドネーバース・ジャパン
- (公財) ケア・インターナショナル ジャパン
- (公財) 結核予防会
- (公財) 国際開発救援財団
- (特活) 国際協力NGO・IV-JAPAN
- (特活) シェア=国際保健協力市民の会
- (特活) JEN
- JANNET (障害分野NGO連絡会)
- (特活) シャプラニール=市民による海外協力の会
- (公社) シャンティ国際ボランティア会
- (特活) 日本国際ボランティアセンター
- (特活) 日本リザルツ
- (特活) パレスチナ子どものキャンペーン
- (特活) ハンガー・フリー・ワールド
- (特活) ピープルズ・ホープ・ジャパン
- (公財) プラン・ジャパン
- (特活) ブリッジ エーシア ジャパン
- (特活) 横浜NGO連絡会
- (特活) ワールド・ビジョン・ジャパン
- 国際協力NGOセンター (JANIC) 【事務局】

2011年度CSR推進NGOネットワークのメンバー

<企業メンバー：18社>

- アクセンチュア株式会社
- 旭硝子株式会社
- 味の素株式会社
- オムロン株式会社
- オリンパス株式会社
- 花王株式会社
- 株式会社資生堂
- ソニー株式会社
- 株式会社大和証券グループ本社
- 武田薬品工業株式会社
- 株式会社電通
- 東京海上日動火災保険株式会社
- 株式会社博報堂
- パナソニック株式会社
- ファイザー株式会社
- 富士通株式会社
- 株式会社ブリヂストン
- 株式会社リコー

<アドバイザー：3名>

- 赤羽 真紀子氏 (CSR Asia 日本代表)
- 新谷 大輔氏 (株式会社三井物産戦略研究所 研究員)
- 黒田 かをり氏 (CSOネットワーク 共同事業責任者)

CSR推進NGOネットワーク 活動の様子



CSR推進NGOネットワーク 活動の様子



企業とNGOの連携 ～企業とNGOの関係の変化～

＜一方通行の関係＞

- ◆ **対峙型**：NGOが企業行動を監視・批判、時には敵対的に行動。
- ◆ **支援型**：NGOの活動理念の達成と企業の社会貢献活動の理念を合致させる目的で企業からNGOへ支援や協力。



＜双方向の関係＞

- ◆ 地球規模の課題解決に向けて、**対話、コミュニケーション、連携**をする関係に。
- ◆ コミュニティ、政府、その他のグループなど**多様なステークホルダーの関わり**も重要に。

＜外部環境の変化＞

- ◆ 地球規模課題が深刻化。地球全体の持続性を脅かす共通課題として認識。**単独のセクターだけでは解決は困難。** → **MDGs**
- ◆ 影響力を増した企業の社会的責任（CSR）。企業、政府だけでなく、**NGOや市民社会にも、社会的責任を果たし互いに連携や協力をして解決にあたる**ことが求められている。

企業とNGOの連携とは

「持続可能な社会の実現に向けた**地球規模の課題解決を目的**として、お互いの特性を認識し、資源や能力等を持ち寄り、対等な立場で協力して活動すること」

辞書によると

【協力】

力を合わせて事にあたること

【連携】

同じ目的を持つもの同士が、協力し、物事に取り組む事

連携は目的に到達するための「手段」であって連携そのものが「目的」であってはならない

13

連携の意義

企業

- ◆ 経済的利益を追求しながらも社会的問題も同時に解決していく姿勢が求められている。
- ◆ NGOと連携することで、社会的課題への専門性や現地コミュニティ・人々のエンパワメント等の視点を取り入れる事ができる。

NGO

- ◆ 企業の持つ技術力、組織力、営業力、マーケティング力などを地球規模の課題解決に活かそうという動きが活発に。

企業
×
NGO



- ◆ 複雑化する地球規模の課題は一国や一機関の努力だけでは解決が困難。それぞれのアクターが連携することが重要。
- ◆ 互いの強みを活かし win-win 関係が築けるなら、これまで困難とされてきた地球規模の課題解決にも大きく近づけるはず。

連携の課題

- ◆ 連携相手をどうやって探せばいいかわからない・・・
- ◆ 連携を始めたものの思った通りには進まない、コミュニケーションが上手くとれない・・・
- ◆ 企業は短期的成果を求めがち、NGOは意思決定に時間がかかり過ぎ・・・
- ◆ NGOの報告には満足していない・・・
- ◆ 結局は企業のマーケティングに利用されただけ・・・
- ◆ 担当者が変わるとせっかくの連携が逆戻り・・・
- ◆ 支援する側・される側（上下関係）、対等なパートナーシップではない・・・



互いの立場や違いを理解・尊重しながら活用できるように
連携のための共通のガイドラインが必要

連携のパターン

1. フィランソロピー（チャリティ）型

一方通行の関係。企業のNGOの活動への関与度は相対的に低く、NGOは企業に対して感謝する姿勢が見られる。

- 寄付や助成金
- 施設の提供や商品の貸出（無償提供）
- ボランティア、専門家（理事などのマネジメント含む）の派遣
- 各種キャンペーンへの参加や協力

Austin, J.E. (ジェームズ・オースティン),
「The Collaboration Challenge」 Jossey-Bass Publisher,
2000年

連携のパターン

2. トランザクション（取引関係）型

企業とNGOの間に相互理解と信用が生まれる連携。ミッションや価値観において類似点が見られる。リーダーシップを持った個人レベルでの強いつながりがある。

- 社員教育
- CSR調達コンサルティング
- ステークホルダーダイアログへの参加
- アドバイザリー（助言委員会）や社外取締役として企業のガバナンスへの参加

3. インテグレーション（事業統合）型

事業に統合された連携。ミッションや価値観が共有され、組織同士の関与度が高まる。相互に組織文化へ影響。

- コース・マーケティング（寄付つき商品）
- 共同事業（商品開発、BOPビジネス等）

17

連携の実践

1. 連携する**目的の明確化**
2. 互いの**特性を把握**する
3. 連携相手を**探す**
4. 連携相手を**選ぶ**
5. 具体的な連携の**目標を設定**する
6. **役割分担**を確認する
7. **規模**を決める
8. **スケジュール**を立てる
9. **人員体制**を整える
10. **書面**によって確認する（覚書、契約書など）
11. **評価・報告**を行う
12. **改善**に向けた取り組み

18

どうやって連携相手を見つけるか？

国際協力NGOダイレクトリー（Web版）の活用

- ◆ 300超のNGOの概要と最新の詳細なデータを全国規模で収録した、国際協力市民団体概要データベース。複数キーワード検索が可能。
- ◆ 2012年2月より、連携先NGOを探す企業への、効果的・実用的な情報の提供を目的として、「**企業連携**」情報の掲載を開始（企業連携実績の有無、方針、希望する連携形態等での団体検索が可能）

<http://www.janic.org/directory/>

19

連携における留意点

1. 目的を共有すること

連携による地球規模の課題解決は、開発途上国の住民といった**第三者の利益を目的**とする。まず、連携の目的が何であるかを双方が理解し、確認しておくことが必要。

2. お互いを理解すること

連携相手の特性を十分に理解し、価値観を尊重することはより良い関係構築の第一歩。異なる組織形態や文化を持つ企業とNGOが、**互いの違いを認めた上で共感できる目的や課題を共有**し、信頼関係を築いていくことが重要。

3. 正直であること

連携の実施にあたり、双方に想定される**リスクなどのマイナスの情報**を事前に共有し、問題を予防することが重要。また、万が一問題が発生した時も、このような姿勢があることで問題を円滑に解決しやすくなる。

20

連携成功のための秘訣

- ◆ 連携の前に**出会いと対話**。出会いがなければ連携も始まらない。
- ◆ 連携の初期段階では、互いの理解不足から誤解が生じることはよくある。そもそも異なる価値観をもった者同士が連携を進めていくのだから、**いろいろな問題に直面するのは、むしろ自然なこと**。
- ◆ そのような時にこそ、**コミュニケーションを通して互いに学び合いながら問題を一つずつ解決していくという姿勢**が大切。
- ◆ このようなプロセスを繰り返していくうちに、信頼関係が構築され、自ずと連携が強固なものとなっていく。**小さな成功（時には失敗）体験を繰り返しながら、徐々に大きな**²¹

環境と貧困のつながり

- ◆ 環境と貧困のつながりを考えることは企業活動、NGO活動、そしてなにより企業とNGOの連携活動において欠かせない。
- ◆ 途上国の現場では以下の3つの 이슈（論点）が顕在化している。企業・NGOをはじめとした関与者および日本の市民にこれらの 이슈への注視と理解を求めたい。

1. 企業活動が環境へ及ぼすインパクトとNGOの役割
 - 調査へのNGOの参加
 - パートナーとしてのNGOの役割
2. これからの環境への取り組みの在り方と評価軸
～植林活動の事例から～
 - 森育ては人育て
 - 割り算のできない支援をアピール
3. 長期視点の見守り



**特定非営利活動法人 国際協力NGOセンター
(JANIC)**

事務局次長 富野 岳士

E-mail : ttomino.janic.org

Tel : 03-5292-2911

www.janic.org